平成25年度12月期（第6期）
通期決算説明会

平成26年2月17日
ラクオリア創薬株式会社

RaQualia
innovators for life

Copyright RaQualia Pharma Inc. All Rights Reserved. 2014

目次

平成25年1月～26年2月までの主なニュース	3
平成25年度12月期 通期実績	9
平成26年度予算	13
ラクオリアの「強み」と「魅力」	15
導出済みポートフォリオの状況	25
中期経営計画の基本方針とその骨子	30

ご注意：本資料は、投資勧誘を目的に作成されたものではありません。投資を行われる際には、投資家ご自身で判断していただくようお願いいたします。
また、本資料最終頁末尾の留意事項を必ずご参照ください。

Copyright RaQualia Pharma Inc. All Rights Reserved. 2014

平成25年1月～平成26年2月までの主なニュース

ご注意：本資料は、投資勧誘を目的に作成されたものではありません。投資を行われる際には、投資家ご自身で判断していただくようお願いいたします。
また、本資料最終頁末尾の留意事項を必ずご参照ください。

Copyright RaQualia Pharma Inc. All Rights Reserved. 2014

平成26年度の主なニュース

2

- 02.06 – 5-HT$_4$受容体部分作動薬の米国における特許査定
- 02.04 – 特別利益（投資有価証券売却益）の計上

1

- 01.07 – モチリン受容体作動薬の米国における特許査定

ご注意：本資料は、投資勧誘を目的に作成されたものではありません。投資を行われる際には、投資家ご自身で判断していただくようお願いいたします。
また、本資料最終頁末尾の留意事項を必ずご参照ください。

Copyright RaQualia Pharma Inc. All Rights Reserved. 2014

平成25年度第4四半期の主なニュース

12

- 12.17 – 連結業績予想の修正（上方修正）
- 12.16 – H.ルンドベック社（デンマーク）との特許ライセンス契約締結
- 12.11 – 特別利益（投資有価証券売却益）の計上

11

- 11.19 – 旭化成ファーマとの創薬研究に関する共同研究契約締結
- 11.08 – 通期連結業績予想の修正（下方修正）

10

- 10.10 – アシッドポンプ拮抗薬の米国における特許査定（用途特許）

ご注意：本資料は、投資勧誘を目的に作成されたものではありません。投資を行われる際には、投資家ご自身で判断していただくようお願いいたします。
また、本資料最終頁末尾の留意事項を必ずご参照ください。

Copyright RaQualia Pharma Inc. All Rights Reserved. 2014

平成25年度第3四半期の主なニュース

9

- 09.27 – Durata社によるダルババンシンの米国NDA申請

8

- 08.01 – 東京大学大学院医学系研究科コンチネンス医学講座との共同研究契約延長

7

- 07.24 – EP_4拮抗薬の中国における特許査定
- 07.19 – イーライリリー社（米国）との鎮痛薬の共同研究期間の延長
- 07.04 – 行使価格修正条項付き第8回新株予約権（第三者割当）の発行に係る払込完了

ご注意：本資料は、投資勧誘を目的に作成されたものではありません。投資を行われる際には、投資家ご自身で判断していただくようお願いいたします。
また、本資料最終頁末尾の留意事項を必ずご参照ください。

Copyright RaQualia Pharma Inc. All Rights Reserved. 2014

平成25年度第2四半期の主なニュース

6

- 06.28 – アラタナ社（米国）がナスダック市場に上場
- 06.17 – 行使価格修正条項付き第8回新株予約権（第三者割当）の発行及びコミットメント条項付き第三者割当契約締結に関する取締役会決議

5

- 05.07 – CJ第一製糖社によるアシッドポンプ拮抗薬の韓国における第Ⅱ相臨床試験開始

ご注意：本資料は、投資勧誘を目的に作成されたものではありません。投資を行われる際には、投資家ご自身で判断していただくようお願いいたします。
また、本資料最終頁末尾の留意事項を必ずご参照ください。

Copyright RaQualia Pharma Inc. All Rights Reserved. 2014

平成25年度第1四半期の主なニュース

3

- 03.25 – アシッドポンプ拮抗薬の米国における特許査定
- 03.22 – カルナバイオサイエンス社と特定キナーゼを標的とした創薬研究に関する共同研究契約締結

2

- 02.22 – EP_4拮抗薬の欧州における特許査定
- 02.01 – 株式会社AskAt事業開始
- 02.01 – インタープロテイン社との蛋白質間相互作用を標的とした創薬研究に関する共同研究契約締結

1

- 01.07 – 株式会社AskAtの設立登記完了

ご注意：本資料は、投資勧誘を目的に作成されたものではありません。投資を行われる際には、投資家ご自身で判断していただくようお願いいたします。
また、本資料最終頁末尾の留意事項を必ずご参照ください。

Copyright RaQualia Pharma Inc. All Rights Reserved. 2014

平成25年度12月期　通期実績

ご注意：本資料は、投資勧誘を目的に作成されたものではありません。投資を行われる際には、投資家ご自身で判断していただくようお願いいたします。
また、本資料最終頁末尾の留意事項を必ずご参照ください。

Copyright RaQualia Pharma Inc. All Rights Reserved. 2014

今連結事業年度の概況

全般

- 当社の業績は前事業年度で事業収益が当初計画を大幅に下回りましたが、保有資産の売却/有効活用により、当期純利益では純損失が当初計画に比べ改善しております。
- 自社及び提携先での臨床試験（開発）は概ね計画通り推移し、大手製薬企業等5社との共同研究もそれぞれ順調に推移しております。
- 今後も株主価値の向上と既存株主様のご理解を得ることができるよう計画達成に向けて、引き続き邁進してまいります。

業績

- H.ルンドベック社との特許ライセンス契約締結
- 新たに旭化成ファーマ㈱と共同研究契約締結
- 自社による5-HT$_4$部分作動薬(RQ-10)の英国での第I相臨床試験の終了
- 提携先である韓国CJ社によるアシッドポンプ拮抗薬(RQ-4)の第Ⅱ相臨床試験開始
- 株式会社AskAtの事業開始

事業面

- 事業収益　　；228百万円（前期事業収益；28百万円）
- 営業損失　　；△2,137百万円（前期営業損失；△2,636百万円）
- 経常損失　　；△1,819百万円（前期経常損失；△2,891百万円）
- 当期純損失　；△1,108百万円（前期当期純損失；△2,905百万円）

ご注意：本資料は、投資勧誘を目的に作成されたものではありません。投資を行われる際には、投資家ご自身で判断していただくようお願いいたします。
また、本資料最終頁末尾の留意事項を必ずご参照ください。

Copyright RaQualia Pharma Inc. All Rights Reserved. 2014

平成25年度12月期　通期　損益計算書

（単位：百万円）

	平成25年12月期（実績）	平成24年12月期（前年実績）	前年比	
			増減	増減率
事業収益	228	28	199	―
事業費用	2,366	2,665	△ 300	△ 11.2%
営業損失（△）	△ 2,137	△ 2,636	499	△ 18.9%
経常損失（△）	△ 1,819	△ 2,891	1,072	△ 37.0%
当期純損失（△）	△ 1,108	△ 2,905	1,797	△ 61.8%

決算ハイライト

- 事業収益として、契約一時金、マイルストーン収入及び共同研究による研究協力金収入を計上
- 事業費用は、前年比で300百万円削減し、11.2％の減少
- 営業外収益として、当社投資先・アラタナ社の株式が米国NASDAQ市場に上場したことに伴い、投資損失引当金の戻入れ（260百万円）、同社株式売却益（800百万円）を計上

ご注意：本資料は、投資勧誘を目的に作成されたものではありません。投資を行われる際には、投資家ご自身で判断していただくようお願いいたします。
また、本資料最終頁末尾の留意事項を必ずご参照ください。

Copyright RaQualia Pharma Inc. All Rights Reserved. 2014

平成25年度12月期　通期　貸借対照表

（単位：百万円）

	平成25年12月期 (実績)	（構成比）	平成24年12月期 (実績)	（構成比）	増減率
流動資産合計	4,363	65.6%	5,089	92.5%	△ 14.3%
現預金	4,035	60.7%	4,889	88.9%	△ 17.5%
その他	328	4.9%	199	3.6%	64.8%
固定資産	2,284	34.4%	411	7.5%	455.7%
有形無形固定資産	18	0.3%	122	2.2%	△ 85.2%
投資その他	2,265	34.1%	288	5.3%	686.5%
資産合計	6,648	100.0%	5,501	100.0%	20.9%
負債合計	902	13.6%	190	3.5%	374.7%
純資産合計	5,746	86.4%	5,310	96.5%	8.2%
負債・純資産合計	6,648	100.0%	5,501	100.0%	20.9%

決算ハイライト

- 現預金残高は、前事業年度末比で8.5億円減少
- アラタナ社株式の時価評価の影響等により、投資その他が前事業年度末比で19.7億円増加
- 純資産合計は、前事業年度末比で4.3億円増加

ご注意：本資料は、投資勧誘を目的に作成されたものではありません。投資を行われる際には、投資家ご自身で判断していただくようお願いいたします。
また、本資料最終頁末尾の留意事項を必ずご参照ください。

Copyright RaQualia Pharma Inc. All Rights Reserved. 2014

平成26年度予算

ご注意：本資料は、投資勧誘を目的に作成されたものではありません。投資を行われる際には、投資家ご自身で判断していただくようお願いいたします。
また、本資料最終頁末尾の留意事項を必ずご参照ください。

Copyright RaQualia Pharma Inc. All Rights Reserved. 2014

平成25年度実績と平成26年度計画

（単位：百万円）

	事業収益	事業費用	営業損失	経常損失	当期純損失
平成26年度通期（計画）	300	1,984	△1,684	△1,685	△282
平成25年度通期（実績）	228	2,366	△2,137	△1,819	△1,108

（注）： 平成25年度　実績は連結業績決算速報値を記載しております

事業収益

- 共同研究およびアライアンス・マネジメントを推進し、疼痛、消化器疾患の各プログラムからマイルストーン収入と契約一時金収入の獲得
- 消化器疾患プログラムの導出による一時金収入の獲得

事業費用

- 施設関連費の削減
- 研究開発費は平成25年度のレベルを維持

当期純損失

- 保有資産有効活用による投資有価証券売却益（約15億円）の計上

ご注意：本資料は、投資勧誘を目的に作成されたものではありません。投資を行われる際には、投資家ご自身で判断していただくようお願いいたします。
また、本資料最終頁末尾の留意事項を必ずご参照ください。

Copyright RaQualia Pharma Inc. All Rights Reserved. 2014

ラクオリアの「強み」と「魅力」

ご注意：本資料は、投資勧誘を目的に作成されたものではありません。投資を行われる際には、投資家ご自身で判断していただくようお願いいたします。
また、本資料最終頁末尾の留意事項を必ずご参照ください。

Copyright RaQualia Pharma Inc. All Rights Reserved. 2014

（1）ラクオリア創薬の事業領域と戦略



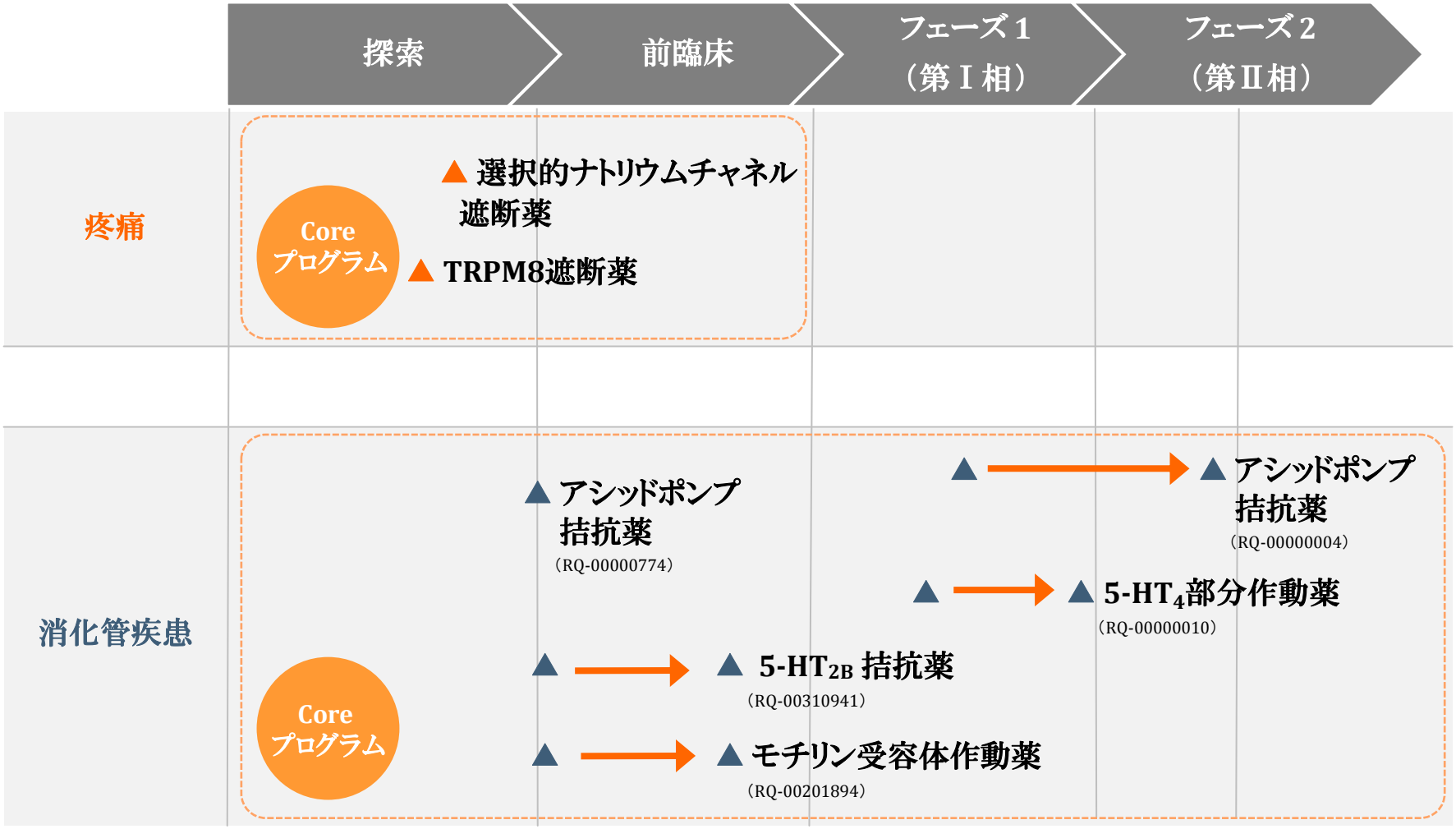
1. “創薬力”の強化と継続的な開発候補品の創出
2. 探索段階からの共同研究の推進
3. 開発プログラムの価値向上による早期収益化
4. アライアンス・マネジメントによる長期的安定収益の獲得

ご注意：本資料は、投資勧誘を目的に作成されたものではありません。投資を行われる際には、投資家ご自身で判断していただくようお願いいたします。
また、本資料最終頁末尾の留意事項を必ずご参照ください。

Copyright RaQualia Pharma Inc. All Rights Reserved. 2014

（2）主な研究開発ポートフォリオの状況
- 導出候補プログラムとステージ

2014年1月現在



ご注意：本資料は、投資勧誘を目的に作成されたものではありません。投資を行われる際には、投資家ご自身で判断していただくようお願いいたします。
また、本資料最終頁末尾の留意事項を必ずご参照ください。

Copyright RaQualia Pharma Inc. All Rights Reserved. 2014

（3）創薬力

国内バイオベンチャートップクラスのインフラを最大限に活かし開発化合物の創出を目指す

ハード・インフラ

- **化合物ライブラリー**
  - 豊富な化合物を継続拡充



保有数 38万

- **化合物の合成と分析**
  - 自動化システムの確立



化合物合成 週150可

- **スクリーニング**
  - ORCAロボットシステム導入
  - オートパッチ（QPatch）導入



High Through-put Screening

×

ソフト・インフラ

- 高度な技術を有する豊富な研究員
- 「消化管疾患」、「疼痛」領域に精通した研究員
- イオンチャネル創薬分野で複数の製薬企業と共同研究を実施

豊富なリソースを下に効率良く探索研究・開発を行い1年に1開発化合物の創出を目指します

ご注意：本資料は、投資勧誘を目的に作成されたものではありません。投資を行われる際には、投資家ご自身で判断していただくようお願いいたします。
また、本資料最終頁末尾の留意事項を必ずご参照ください。

Copyright RaQualia Pharma Inc. All Rights Reserved. 2014

（4）イオンチャネル創薬（当社の実績）

国内外の複数の製薬企業と共同研究契約を締結

会社名	締結日	内容
Eli Lilly and Company（米国）	平成22年12月	疼痛領域における特定のイオンチャネルを標的とした共同研究
味の素製薬株式会社	平成24年10月	消化器領域における特定のイオンチャネルを標的とした共同研究
旭化成ファーマ株式会社	平成25年11月	特定のイオンチャネルを標的とした共同研究

■ 探索研究段階における共同研究

- 当社のイオンチャネルに関するハイスループットスクリーニング技術および創薬研究全般に関する独自の技術ノウハウと提携先の創薬研究開発におけるノウハウとを合わせた新薬創出に向けての共同の取り組み



契約一時金、開発・承認・販売に応じたマイルストーン収益と販売後のロイヤリティー

ご注意：本資料は、投資勧誘を目的に作成されたものではありません。投資を行われる際には、投資家ご自身で判断していただくようお願いいたします。
また、本資料最終頁末尾の留意事項を必ずご参照ください。

Copyright RaQualia Pharma Inc. All Rights Reserved. 2014

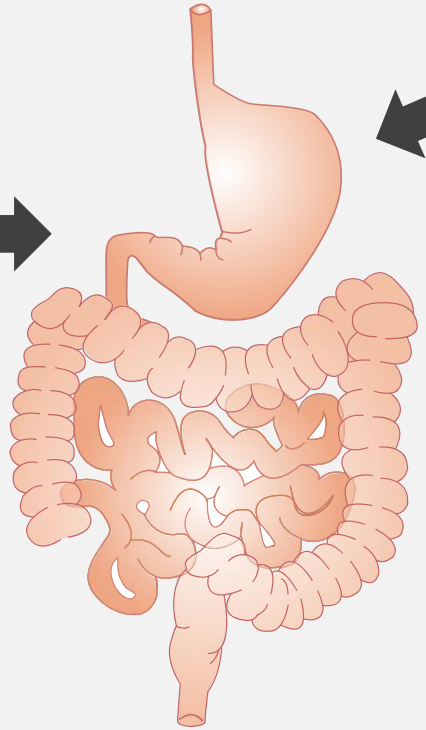
（5）充実した消化管疾患のポートフォリオ

食欲及び消化管運動亢進
– グレリン受容体作動薬
（RQ-5）



胃酸分泌抑制
– アシッドポンプ 拮抗薬
（RQ-4）

空腹期消化管運動正常化
– モチリン受容体作動薬
（RQ-201894）



消化管運動亢進
– セロトニン受容体
5-HT$_4$ 部分作動薬
（RQ-10）

内臓痛の改善及び
消化管運動正常化
– セロトニン受容体
5-HT$_{2B}$ 拮抗薬
（RQ-310941）

ご注意：本資料は、投資勧誘を目的に作成されたものではありません。投資を行われる際には、投資家ご自身で判断していただくようお願いいたします。
また、本資料最終頁末尾の留意事項を必ずご参照ください。

Copyright RaQualia Pharma Inc. All Rights Reserved. 2014

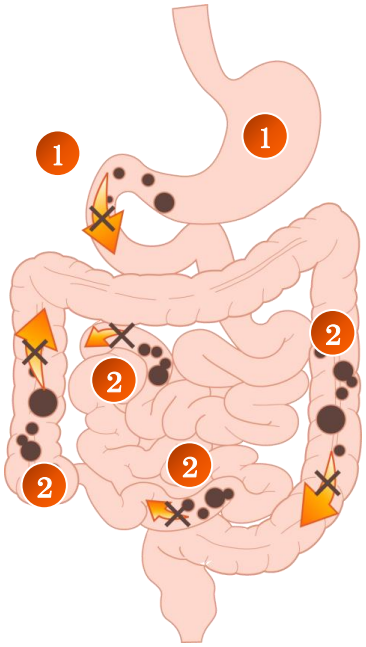
（6）事業の進捗状況（5-HT$_4$部分作動薬RQ-10）
英国で第Ⅰ相臨床試験終了、POC試験検討中

薬のアイデア ▼ 化合物決定 ▼ 臨床試験開始 ▼ コンセプト確認 ▼ 行政への申請 ▼ 発売

探索 → 前臨床 → フェーズ1（第Ⅰ相） → フェーズ2（第Ⅱ相） → フェーズ3（第Ⅲ相） → 承認審査

- 消化管運動機能に重要な役割を果たし、市場実績があるセロトニン受容体の一つ（5-HT$_4$）が標的である
- 日本市場で年間212億円（2011年度）の売上げを持つ5-HT$_4$作動薬・モサプリドより強い薬効と高い安全性が期待されている
- 英国で健康成人（88例組み入れ）による第Ⅰ相臨床試験を終了。高い安全性および忍容性を確認、バイオマーカーとして胃排出能への影響を検討、非常に低い用量（3μg/body）で明確に胃排出能を促進させることを確認
- 当該化合物は、①胃運動機能の改善（胃不全麻痺、機能性ディスペプシア）と②小腸及び大腸運動機能の改善（機能性便秘）に関連し、有望な可能性がある治療薬として現在、第Ⅱ相臨床試験の実施を検討中

消化管運動機能の改善



1 胃運動機能の改善
- 胃不全麻痺
- 機能性ディスペプシア

2 小腸および大腸運動機能の改善
- 機能性便秘
- 便秘型過敏性腸症候群
- 術後腸閉塞

ご注意：本資料は、投資勧誘を目的に作成されたものではありません。投資を行われる際には、投資家ご自身で判断していただくようお願いいたします。
また、本資料最終頁末尾の留意事項を必ずご参照ください。

Copyright RaQualia Pharma Inc. All Rights Reserved. 2014

（7）事業の進捗状況（アシッドポンプ拮抗薬 RQ-4）
提携先である韓国CJ社で第Ⅱ相臨床試験を実施

- アシッドポンプ拮抗薬（RQ-00000004）
  速やかに、持続的に、優れた胃酸分泌抑制

研究・開発

- アシッドポンプ/プロトンポンプは胃酸の分泌に重要な役割を果たしています。
- RQ-4は既存のプロトンポンプ阻害薬（PPI）より優れた有効性を示す次世代の胃酸分泌阻害薬として期待され、①速やか、②持続的、③空腹時服用での効果、④夜間の効果でPPIとは全く異なる特徴/差別化点を臨床試験で証明しており、より有用な治療法となる可能性を持っています。
- 米国・韓国での臨床試験において、安全性、忍容性、薬物動態とともに本剤の優れた胃酸分泌抑制効果を確認しています。
- 胃食道逆流症患者を対象とした第II相臨床試験が韓国のCJ社で順調に実施されております。

想定される市場規模

- 2009年競合既存薬の世界的市場規模が約2兆円で、国内PPI市場は成長中であります。
- PPIに代わる薬として、胃食道逆流症を含む全てのPPI適応症のマーケットシェアを取ることが期待されます。
- 競合品としては、第Ⅲ相臨床試験ステージのVonoprazan（TAK-438、武田薬品）があります。

ご注意：本資料は、投資勧誘を目的に作成されたものではありません。投資を行われる際には、投資家ご自身で判断していただくようお願いいたします。
また、本資料最終頁末尾の留意事項を必ずご参照ください。

Copyright RaQualia Pharma Inc. All Rights Reserved. 2014

（8）事業の進捗状況
5-HT_{2B}拮抗薬(RQ-00310941)/モチリン受容体作動薬（RQ-00201894）

【主なトピックス】

＜２つの開発化合物の前臨床開発が順調に進展＞

- **5-HT_{2B}拮抗薬（RQ-00310941）　前臨床開発実施中**

  5-HT_{2B}受容体は消化管の運動や知覚に関与しています。高い活性と選択性を持つ5-HT_{2B}拮抗薬である本化合物は、機能性消化管障害の中でも注目度の高い過敏性腸症候群（IBS）の有効な治療薬として期待されます。

  前事業年度において、予定していた全ての薬物動態試験および毒性試験ならびに安全性薬理試験（いずれもGLP基準）を実施しました。平成26年度においては、前事業年度から着手していた薬効薬理試験を完了し、さらなるステージアップに向けて進んで参ります。

- **モチリン受容体作動薬（RQ-00201894）　前臨床開発実施中**

  消化管ホルモンであるモチリンは、消化管機能の恒常性維持に重要な役割を担っています。高い活性と選択性を持つ本化合物は、胃不全麻痺、術後イレウス、機能性ディスペプシア等の未充足の医療ニーズに応える新薬となることが期待されます。

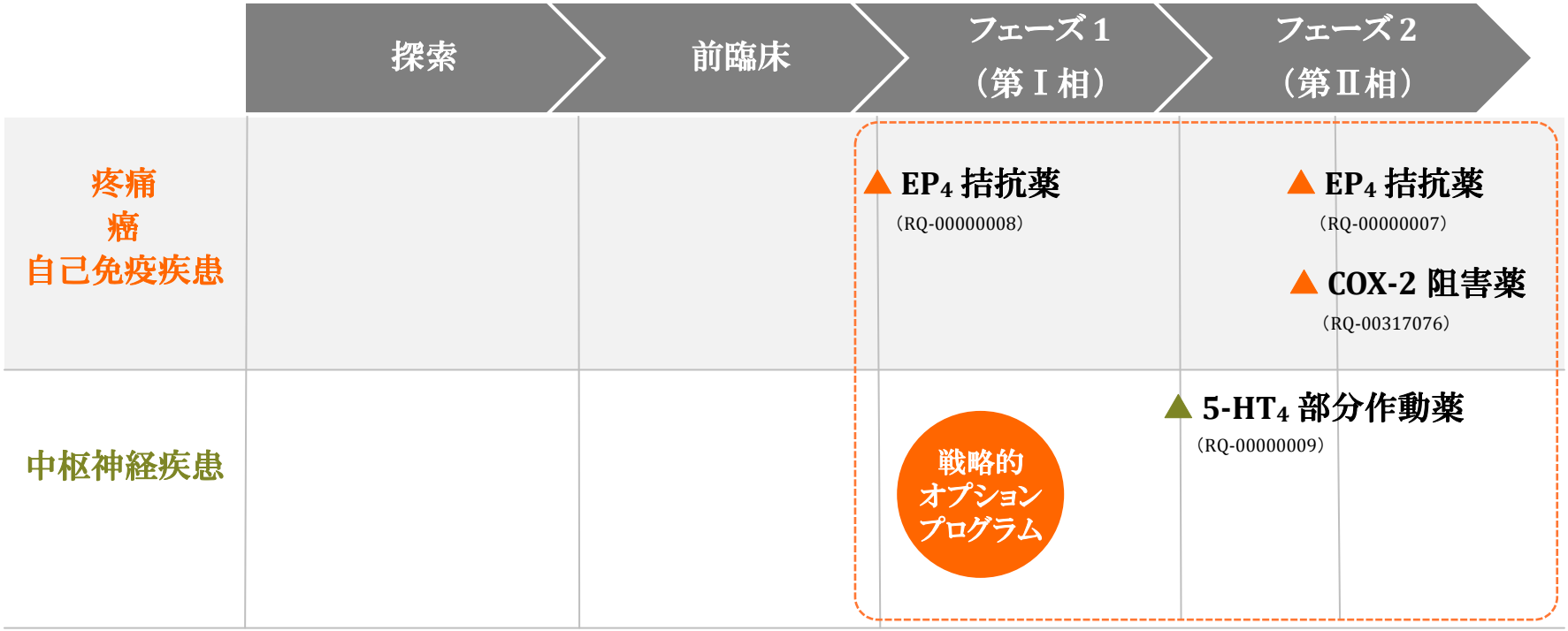
  前事業年度に着手した4週間反復経口投与毒性試験（GLP基準）は、現在、評価結果の精査段階にあります。その他、薬物動態試験および薬効薬理試験についても、各種評価が進行中です。平成26年度においても、これらの前臨床試験を継続実施し、さらなるステージアップに向けて進んでまいります。

ご注意：本資料は、投資勧誘を目的に作成されたものではありません。投資を行われる際には、投資家ご自身で判断していただくようお願いいたします。
また、本資料最終頁末尾の留意事項を必ずご参照ください。

Copyright RaQualia Pharma Inc. All Rights Reserved. 2014

（9）株式会社AskAtの会社概要
- 導出候補プログラムとステージ

2014年1月現在



ご注意：本資料は、投資勧誘を目的に作成されたものではありません。投資を行われる際には、投資家ご自身で判断していただくようお願いいたします。
また、本資料最終頁末尾の留意事項を必ずご参照ください。

Copyright RaQualia Pharma Inc. All Rights Reserved. 2014

導出済みポートフォリオの状況

ご注意：本資料は、投資勧誘を目的に作成されたものではありません。投資を行われる際には、投資家ご自身で判断していただくようお願いいたします。
また、本資料最終頁末尾の留意事項を必ずご参照ください。

Copyright RaQualia Pharma Inc. All Rights Reserved. 2014

（1）世界に展開するパートナーシップ
- 当社のライセンス・パートナー



ご注意：本資料は、投資勧誘を目的に作成されたものではありません。投資を行われる際には、投資家ご自身で判断していただくようお願いいたします。
また、本資料最終頁末尾の留意事項を必ずご参照ください。

Copyright RaQualia Pharma Inc. All Rights Reserved. 2014

（2）主な契約締結済み研究開発ポートフォリオの状況

2014年1月現在

共同研究

プログラム	共同研究先	想定疾患領域
特定のイオンチャネル	Eli Lilly and Company	疼痛
	味の素製薬株式会社	消化器系疾患領域
	旭化成ファーマ株式会社	（契約により非公開）

導出

プログラム	化合物コード	導出先	権利
EP_4 拮抗薬	RQ-00000007	丸石製薬	日本、韓国、中国、台湾 （注射剤）
		Aratana Therapeutics Inc.	全世界 （動物薬）
アシッドポンプ拮抗薬	RQ-00000004 RQ-00000774	CJ 第一製糖	韓国、中国、台湾
グレリン受容体作動薬	RQ-00000005	Aratana Therapeutics Inc.	全世界 （動物薬）
ダルババンシン （抗MRSA抗菌剤）	RQ-00000002	Durata Therapeutics Inc.	日本
ジプラシドン （統合失調症・双極性障害薬）	RQ-00000003	Meiji Seika ファルマ	日本
5-HT_4 部分作動薬 （消化管領域）	RQ-00000010	CJ 第一製糖	韓国、中国、台湾、インド、東南アジア

ご注意：本資料は、投資勧誘を目的に作成されたものではありません。投資を行われる際には、投資家ご自身で判断していただくようお願いいたします。
また、本資料最終頁末尾の留意事項を必ずご参照ください。

Copyright RaQualia Pharma Inc. All Rights Reserved. 2014

（3）パイプラインの状況（ヒト領域）

- 第Ⅲ相試験を予定しているジプラシドンは、試験開始に向け支援を続けてまいります。
- ダルババンシンは、円滑に試験が進むよう支援を続けてまいります。
- アシッドポンプ拮抗薬(RQ-00000004)については、計画通り平成25年に第Ⅱ相試験がスタート。引き続き試験に必要なデータを提供してまいります。
- 5-HT_4部分作動薬については、韓国において第Ⅰ相試験が開始できるよう、各種情報を導出先企業に提出し試験開始を支援してまいります。
- EP_4拮抗薬については丸石社による開発戦略及び計画策定を引き続き支援し、今後のマイルストーン収益及びロイヤリティ収益の早期獲得に努めます。

プロジェクト	化合物	主適応症	探索研究～前臨床試験	臨床試験			導出先企業	契約地域
				第Ⅰ相	第Ⅱ相	第Ⅲ相		
ジプラシドン	RQ-00000003	統合失調症、双極性障害				準備中	Meiji Seikaファルマ㈱	日本
ダルババンシン	RQ-00000002	MRSA感染症					Durata Therapeutics Inc.	
アシッドポンプ拮抗薬	RQ-00000004	胃食道逆流症			実施中（韓国）		CJ第一製糖㈱	韓国・中国・台湾
	RQ-00000774			計画中				
5-HT_4部分作動薬	RQ-00000010			導出先にて計画中（韓国）				韓国・中国・台湾・インド及び東アジア
EP_4拮抗薬	RQ-00000007	慢性炎症性疼痛急性痛など		計画中			丸石製薬㈱	日本・中国・韓国・台湾

ご注意：本資料は、投資勧誘を目的に作成されたものではありません。投資を行われる際には、投資家ご自身で判断していただくようお願いいたします。
また、本資料最終頁末尾の留意事項を必ずご参照ください。

Copyright RaQualia Pharma Inc. All Rights Reserved. 2014

（4）パイプラインの状況（動物薬）

- グレリン受容体作動薬については、ヒトのみならずペット動物向けの食欲亢進薬として開発できるよう、引き続き導出先企業と連携して開発に必要な情報を提供してまいります。
- EP_4拮抗薬については、ヒトのみならずペット動物の鎮痛剤として開発できるよう、引き続き導出先企業と連携して開発試験開始に向けて支援を続けてまいります。

プロジェクト	化合物	主適応症	探索研究～前臨床試験	臨床試験			導出先企業	契約地域
				–	用量探索	大規模		
グレリン受容体作動薬	RQ-00000005	体重減少、食欲不振					Aratana Therapeutics Inc.	全世界
EP_4拮抗薬	RQ-00000007	変形性関節症				準備中		

ご注意：本資料は、投資勧誘を目的に作成されたものではありません。投資を行われる際には、投資家ご自身で判断していただくようお願いいたします。
また、本資料最終頁末尾の留意事項を必ずご参照ください。

Copyright RaQualia Pharma Inc. All Rights Reserved. 2014

中期経営計画の基本方針とその骨子

ご注意：本資料は、投資勧誘を目的に作成されたものではありません。投資を行われる際には、投資家ご自身で判断していただくようお願いいたします。
また、本資料最終頁末尾の留意事項を必ずご参照ください。

Copyright RaQualia Pharma Inc. All Rights Reserved. 2014

（1）中期経営計画の基本方針とその骨子

【中期経営計画の基本方針】

- 蓋然性の高い事業計画の作成と実行・達成と企業価値の向上
- 安定収益獲得に向けての具体的な方針/施策の提示

【中期経営計画の骨子】

- 研究開発ポートフォリオの強化と充実
  - 産学連携による創薬研究の加速
  - 外部機関等との共同研究による新規開発化合物の創出
  - 自社評価系による継続的な新規開発化合物の創出

- 研究開発成果の収益化の向上
  - アライアンス・マネジメント強化による中長期で見込まれるマイルストーン収入、ロイヤリティー収入の獲得
  - プログラム価値向上によるプログラム導出促進と収益の獲得
  - 産学連携による研究成果の収益化

ご注意：本資料は、投資勧誘を目的に作成されたものではありません。投資を行われる際には、投資家ご自身で判断していただくようお願いいたします。
また、本資料最終頁末尾の留意事項を必ずご参照ください。

Copyright RaQualia Pharma Inc. All Rights Reserved. 2014

（2）中期経営計画の基本方針とその骨子

【中期経営計画の骨子】

■ 経営資源の集中による事業費用の圧縮
- 当社保有Coreプログラムの自己資金/外部プロジェクト・ファイナンスを活用した開発ステージのアップ
- 継続的な固定費の見直しと削減努力

■ 経営の安定と事業継続性
- 安定収入獲得までの所謂「死の谷」を越えうる資金調達の検討と実行
- 戦略的資本（業務）提携の推進
- 成果主義による従業員へのインセンティブの検討・実行

ご注意：本資料は、投資勧誘を目的に作成されたものではありません。投資を行われる際には、投資家ご自身で判断していただくようお願いいたします。
また、本資料最終頁末尾の留意事項を必ずご参照ください。

Copyright RaQualia Pharma Inc. All Rights Reserved. 2014

将来見通しに関する注意事項

- 本発表において提供される資料ならびに情報は、いわゆる「見通し情報」（forward-looking statements）を含みます。これらは、現在における見込み、予測およびリスクを伴う想定に基づくものであり、実質的にこれらの記述とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。

- それらリスクや不確実性には、一般的な業界ならびに市場の状況、金利、通貨為替変動といった一般的な国内および国際的な経済状況が含まれます。
  リスクや不確実性は、特に製品（研究開発プログラムおよび化合物）に関連した見通し情報に存在します。製品のリスク、不確実性には、技術的進歩、特許の競合他社による獲得、臨床試験の完了、製品の安全性ならびに効果に関するクレームや懸念、規制当局からの承認取得、国内外の医療保険制度改革、医療費抑制への傾向、国内外の事業に影響を与える政府の法規制、新製品開発に付随する課題などが含まれますが、これらに限定されるものではありません。

- 今後、新しい情報・将来の出来事等があった場合であっても、当社は、本発表に含まれる「見通し情報」の更新・修正を行う義務を負うものではありません。

ご注意：本資料は、投資勧誘を目的に作成されたものではありません。投資を行われる際には、投資家ご自身で判断していただくようお願いいたします。
また、本資料最終頁末尾の留意事項を必ずご参照ください。

Copyright RaQualia Pharma Inc. All Rights Reserved. 2014

RaQualia
innovators for life

お問合せ先

TEL：0569-84-0700
（音声ガイダンス：「#5」 IRを選択）
E-mail：当社HPからお願いいたします。
http://www.raqualia.co.jp

ラクオリア創薬株式会社

Copyright RaQualia Pharma Inc. All Rights Reserved. 2014